



Title	ワークショップ
Author(s)	
Citation	目で見るWHO. 2016, 59, p. 11-12
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86665
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ワークショップ

実際に医療支援が広まっていない国、今回はアフガニスタンを対象として、予防接種を普及させるための計画を講演者の話を基に交流を交えながら主体的に考えた。以下にその発表の一部と先生方の講評を紹介する。（敬称略）

☆日本のアニメを現地の言葉で配信する。

←識字率が低いということから、文字ではなく、わかりやすく親しみやすいアニメを用いる。

☆地域に対して啓発のイベントを実施する。

←母子手帳で日程を決めて、母親への勉強会を開催する。

☆日本の学校教育を輸出する。

←給食当番を通じて衛生管理について学ぶ。

☆識字教室の開催。

←女性は畑仕事などの労働力とみなされている。そこで、識字をメインとするのではなく、労働力のアップがメインで、その過程で、一緒に識字の勉強をさせる。

☆スタディーツアーの実施。

←アフガニスタンのリーダーを養成するために、アフガンの子供を海外に送り、国外の医療を受けてもらう。その代わりに、アフガンでは子供は労働力とみなされているため、海外の技術者を労働力として交換する。そして、労働力としてだけでなく、プラスアルファの価値を生み出してもらうことにより、アフガンの子供が戻ってきたときに、子供が労働力として使われない基盤を構築させる。

☆予防接種を広めるモデル都市を作る。

☆コストダウンのために、パキスタン、アフガニスタンでのワクチンの共同購入を行う。



☆医療に携わる人を養成する。

←女性への蔑視や西洋医学への偏見、貧困、低い識字率などが医療関係者の数が少ない原因になっ

ている。そこで、養成するのに時間のかかりすぎる医者を増やすのではなく、短期間の敷居の低い研修を通じて、コメディカル、すなわち、医療に関わる人を増やす。そのメリットを多くの人にわかってもらうために権力者に話をしてもらったり、村同士の繋がりを利用して権力者同士で説得し合ってもらおう。

蜂矢 人材育成、教育、インフラ整備、資金調達など良い意見が出ていた。ただし、日本のアニメというのは地域によっては地雷にもなりうる。偶像崇拝が避けられている地域において、日本のアニメキャラクターが予防接種の効果を説明するというのはおそらく受け入れられない。そういったことは、現地で仕事をする際に気をつけなくてはいけない。保健医療従事者に注射の仕方を説明するのは良いかもしれないが、それを受ける側にも同じように説明するのは文化的に難しいことがあるため、注意をしなければならぬ。

浦部 教育を実施したり長老を使ってというのは、海外で活動する際に、皆が考えることですが、現実にはそこが上手くいかないことが多い。色々チャレンジしては失敗してというのを繰り返している。長期的なところで教育というのは確かに必要だけれども、宗教的には女性は学ぶ必要はないというイスラムの原理主義が存在する。



また、アフガンは南北において民族の違いがあり、パキスタンも北の方は外国人が非常に入りにくい場所で、そこには知らない女性が知らない家に訪ねてもあまり支障はないですが、知らない男が家を訪ねると殺されても仕様がないうくらい、外部の者を敵対するという部族意識が存在す

る。そういった状況があるので、状況を改善するためには、向こうの人にやる気になってもらうしか解決策はない。加えて、教育というのは残念ながら短期的な解決策にはならないのではないかと思います。